

酒と魚釣りが大好き。
じつとしてるのは性に合わん。
大変なことは皆で楽しみながらやることだ。

早出 昭寛さん 90歳



今年90歳を迎えた占冠市街在住の早出昭寛(しょうかん)さん。昭和3年に占冠村で生まれ、これまでの人生のほとんどをこの村と歩み続けた生粋の村人です。90歳でも自転車に乗って移動するまだまだ元気な昭寛さんは、快く取材に応じてくれました。急な取材に応じていただき、本当にありがとうございました。

仕事の主役の人生

小林 昭寛さんはどのようなお仕事
をされていたのですか。

昭寛さん
夏場は桎葺き(まさぶき)屋
根の仕事と農家をしていた

よ。冬は山仕事もした。どれが本職かわかんねえんだわ。村内中の、昔の農家の住宅の屋根葺きをしながら、親父と歩いたもんだ。自転車も何もない時代だから、占冠から双珠別まで歩いて、仕事先の家に泊り込みで仕事をしていったんだよ。ほとんど毎日、よそのうちのご飯をいただきながら暮らしていた。

小林 桎葺きの仕事は、年間をとおしてするんですか。

昭寛さん
秋からが大変なんだわ。雪も降るし、冷たいし。屋根で足を滑らせることもある。何回も下までドーンと落ちたよ(笑)。

小林 ええ！大丈夫なんですか。

昭寛さん
大丈夫大丈夫。俺頑丈だった
みたいだよ。

小林 お仕事はいつからされていた
んですか。

昭寛さん
農家は13歳ぐらいから、馬を使って畑を耕していた。昔の人はみんなやってたよ。勉強は二の次で、農業が第一だった。学校では真面目に勉強したが、家に帰ってきたら勉強する時間もない。19歳からは、桎葺きの仕事の商売も任された。賃金やら、仕事内容も自分で決めなきゃならない。山仕事では、道付けや雪はね、川の流れを利用して木材を運ぶ流送と何でもやっただ。田舎にいたら何でもやらなきゃならんさ。小さい頃から仕事の主役の人生だったよ。

お酒と魚釣りが好き

小林 お酒と魚釣りが好きだと伺いました。

昭寛さん
酒は若い時から好きで、毎晩飲んでるよ。黙っているのが嫌いで、暇があれば魚釣りに行くんだよ。魚釣りは80年以上のキャリアだ。魚がいる限り釣りは続けたいが、俺の方が先に参っちゃうな(笑)。

皆で楽しみな ながらやる ことが大切

小林 90年を生き、たくさん
の経験を
をされてきたと思いますが、
これまで人生の中で大切に
されてきたことはありますか。

昭寛さん
仕事はもちろん大切だったが、やっぱり地域の皆で楽しみなが何かをやることかな。地域で集まり皆で何かをする。お祭りも仕事も。これはやめたらダメだ。皆で何かをやるってことは大変かもしれない。その中でも楽しみたい流れを作る。お互い。いがみ合い、拒みあいのようなことは抜きにして、率先して行動することが大事だと俺は思うよ。でしゃばりだ、と人は言うかもしれないけど、人が少なくなると地域が潰れる。皆で力を合わせて楽しむながらやること、ずっと大切だと思ってるよ。



必要なものは『絆』 支えあいを忘れずに ふれあう機会を大切に



ともに支え合う地域福祉を推進するため、49回目となる『ふれあい広場』が9月1日(土)に占冠村保健福祉センター「ノ」で開催されました。

今年のふれあい広場は、恐竜や海外の景色など、そこにあるかのような臨場感を楽しむことができるVR(仮想現実)体験、羊毛で糸をつむぐ糸つむぎ体験、鹿革のみほぐし体験、射的、煙体験ハウスなど様々な体験コーナーを用意。各種体験はいつでも人気で、参加者は講師の指導を受けながらそれぞれの体験を楽しんでいました。

体験後は、人権擁護委員による人形劇を披露。『三匹の子豚』をアレンジした人形劇は、偏見による差別をなくすことや、守られるべき人権について訴えかける内容となっており、人権の問題を考えるきっかけとなりました。

「同じ村に住んでいても普段出会う機会がないたくさんの方が、このふれあい広場に集まります。顔なじみが増え、お互いに支えあう社会の輪が広がる機会になってくれればと思っています。」と社会福祉法人占冠村社会福祉協議会の満永大樹さんは話してくれました。

たくさんの方の参加者と協力者が集い開催された『ふれあい広場』は、地域の『絆』が育まれる行事の一つ。支えあいを忘れずに、ふれあう機会を大切に。『絆』を育むふれあい広場に、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。